

媒体名:健康産業新聞  
掲載日:2007年3月7日  
出版社名:CMPジャパン

## リパミンPS、環境対話キャンプを支援 リパミン広報センター

ADHD（注意欠陥多動性障害）や軽度発達障害児などの症状改善に定評のある親子参加型の「環境対話キャンプ2007」が先月16～18日の3日間、神奈川県三浦市にて催された。

主催したのは、発達臨床学、発達病理学、臨床心理学を専門とする倉敷市立短期大学の平山諭教授。同氏は、これまでADHDの児童などを対象に、脳科学を活用した子育てスキル「環境対話法」を提唱。「環境対話キャンプ」は、児童の集中力、我慢、優しい心を育てることを目的に平成4年から実施。事前に3ヵ月のトレーニングを受けたトレーナーが児童1人当たり2人付く点や、ケースカンファレンスにおいて1人当たり1時間を要する点などを特長とし、キャンプ後の集中力や注意力の改善割合は8割以上になるという。

平山氏はキャンプ開始の冒頭、「ポイントは言葉、表情、食の3つ」とし、“見つめる”“微笑む”“話しかける”“褒める”などオリジナルのコミュニ



平山教授

ケーションスキル『21のスキル』を解説したほか、脳機能改善食として、『リパミンPS』に着目した背景などを紹介した。

キャンプでは、プレインフード素材として認知されるホスファチジルセリン(PS)ブランド『リパミンPS』を提供するリパミン広報センター (<http://www.lipamin-ps.com/>) も食育プログラムを支援。キャンプ会場では、『リパミンPS』を使用したサプリメントが多数紹介された。